

# 破碎したガラスを高度リサイクル

ウム・ヴェルト・ジャパン／セントラル硝子プロダクツ

## 網入り磨き板ガラスの原料に使用

ウム・ヴェルト・ジャパン(埼玉県寄居町)とセントラル硝子プロダクツ(三重県松阪市)はこのたび、圧縮破碎方式(近畿工業製ReSola)で分離・回収された使用済み太陽光パネルのカバーガラスを独自の選別ラインに通すことで、約2トを原料の一部とした網入り磨き板ガラスの試験生産に成功した。強度など、製品として求められる品質・性状を確保できることを確認している。この成果を踏まえ、今年2月から継続的な高度リサイクルを開始した。圧縮破碎方式で回収したガラスを板ガラスの原料に再利用する先進的な取り組みとなる。202

6年度のリサイクル量は50トを想定しており、今後も年度を重ねるごとに量を増やしていく方針だ。

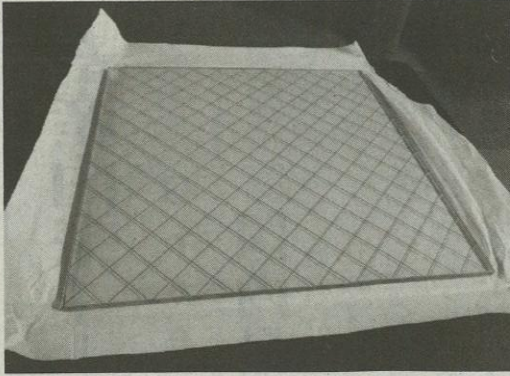
熱を加えずに回収したガラスは、複数段階の選別処理を行うことで、より原料として使いやすいものにする。

採掘量とガラス溶解時のエネルギーを削減でき、CO<sub>2</sub>排出量の削減にもつながるとい

ウム・ヴェルト・ジャパンでは、処理を行う寄居工場に加え、グループ企業の敷地(埼玉県加須市)に太陽光パネルの積替え・保管施設を開設した。北関東エリアからの輸送効率が向上した。今後も運搬回収拠点を増やし、より多くの使用済みパネルのリサイクルを推進する。

受け入れた使用済みパネルは、まず端子・ケーブル等を取り除いてからアルミ枠を外し、ロール破碎機で表面ガラスを圧縮破碎する。ガラス剥離後のバックシートは、廃プラスチック類や金属くず等を破碎できる処理ラインで品質をそろえて製錬事業者等に出荷。現在は年間で約3万枚の太陽光パネルを受け入れて再資源化している。

現在は、再資源化事業等高度化法における類型1(高度再資源化事業)の認定取得に向けた取り組みを進めており、複数の拠点を構築して再生原料を供給できる事業スキームの構築を目指している。



試作した網入り磨き板ガラス

化している。